

北神・三田地域における病院再編 について考える

長谷川 拓三

図 1-1 北神・三田地域の地理的特徴



三田市民病院



表 3-1 三田市民病院の概要

名称	三田市民病院
住所	三田市けやき台3丁目1番地1
病床数	300床(うちHCU7床)
診療科目・部門	内科、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、眼科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、形成外科、産婦人科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科(19診療科)
職員数	455名(R3.4.1現在)
基本理念	良質な高度医療で、地域に安心をもたらします
基本方針	<ul style="list-style-type: none">① 「ハイレベルのチーム医療で患者さんを支えます」② 「救急医療を充実させ、中核病院の役割を果たします」③ 「急性期医療を担い、地域連携を推進します」④ 「経営基盤を強化し、病院機能を向上させていきます」⑤ 「高い技術と倫理観をもった医療人を育成します」



済生会兵庫県 病院

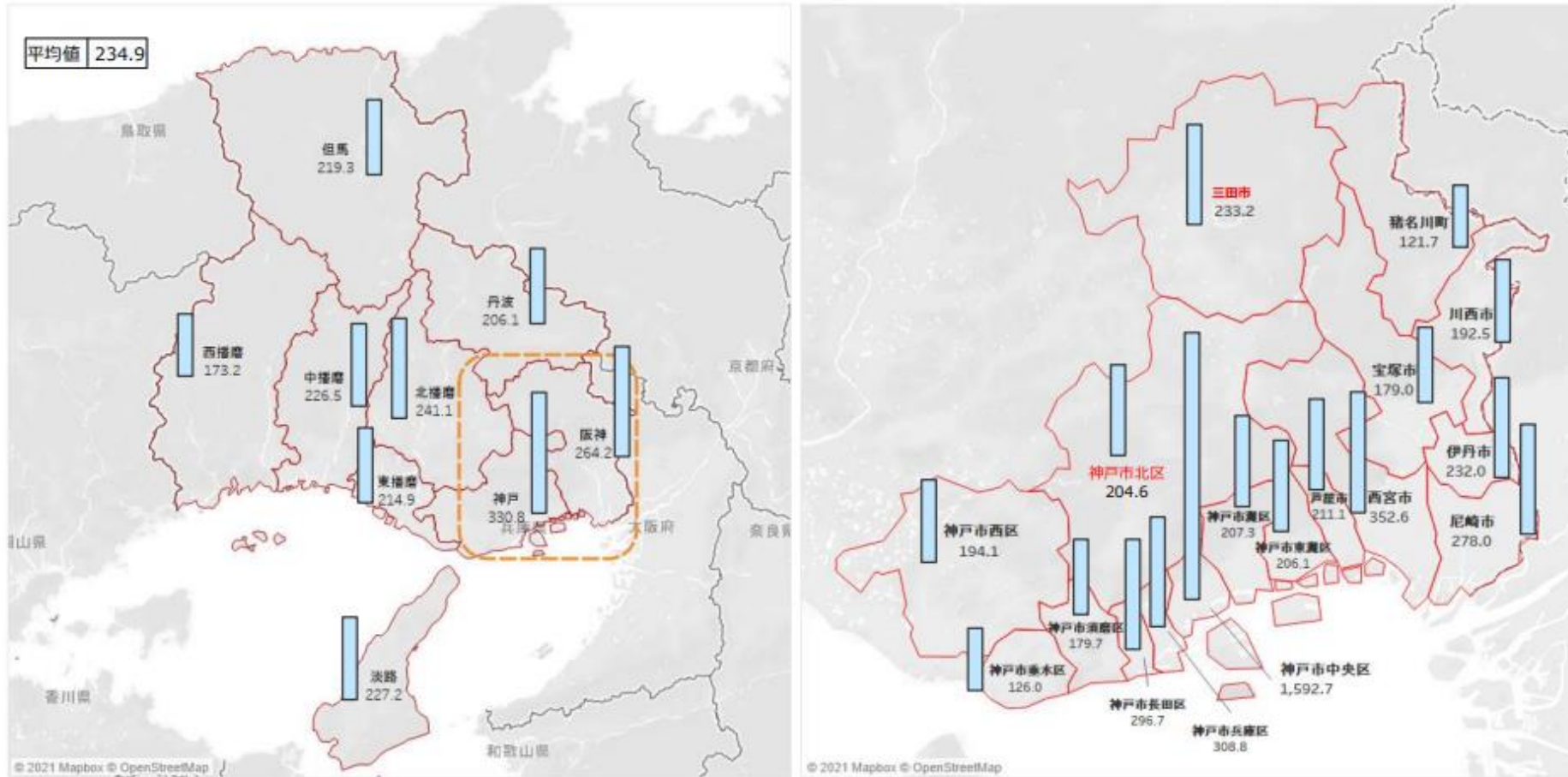


表 2-1 済生会兵庫県病院の概要

名称	社会福祉法人恩賜財団済生会兵庫県病院
住所	神戸市北区藤原台中町5丁目1番地1
病床数	268床(うちHCU8床、NICU9床、地域包括ケア病棟46床)
診療科目・部門	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、呼吸器外科、小児科、外科、産婦人科、整形外科、脳神経外科、歯科口腔外科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、眼科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、アレルギー科、リウマチ科(21診療科)
職員数	403名(R3.4.1現在)
当院の ミッション	①施薬救療(せやくきゅうりょう) →生活困窮者を助ける「施薬救療」が組織(済生会)の根本ミッション ②北神地区の医療機能を支える役割を果たす →当院は人口が急増していた北神ニュータウンの住民の健康・福祉の増進に貢献するために、平成3年12月に神戸市北区藤原台に移転
基本理念	信頼・安心の医療の提供
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の立場に立った医療、患者の満足する医療を追求する。 ・ 地域中核病院として分担すべき役割や機能を明確にし、連携を通して地域医療に貢献する。 ・ チーム医療を推進し、医療の質を向上する。 ・ 予防からリハ、社会復帰までの全人的な包括医療を推進する。 ・ 職員各自互いを尊重し、切磋琢磨して、「誇りの持てる職場づくり」に努める。 ・ 医療を通じて社会に貢献する。

人口当たり医師数

図 1-11 人口あたり医師数



出所:厚生労働省 H30「医師・歯科医師・薬剤師調査」・兵庫県 HP「地域別人口関連時系列データ」より作成

救急医療の地域完結率

(4) 救急医療

図 4-10 神戸市消防（北神地域）による搬送先医療機関の所在地割合

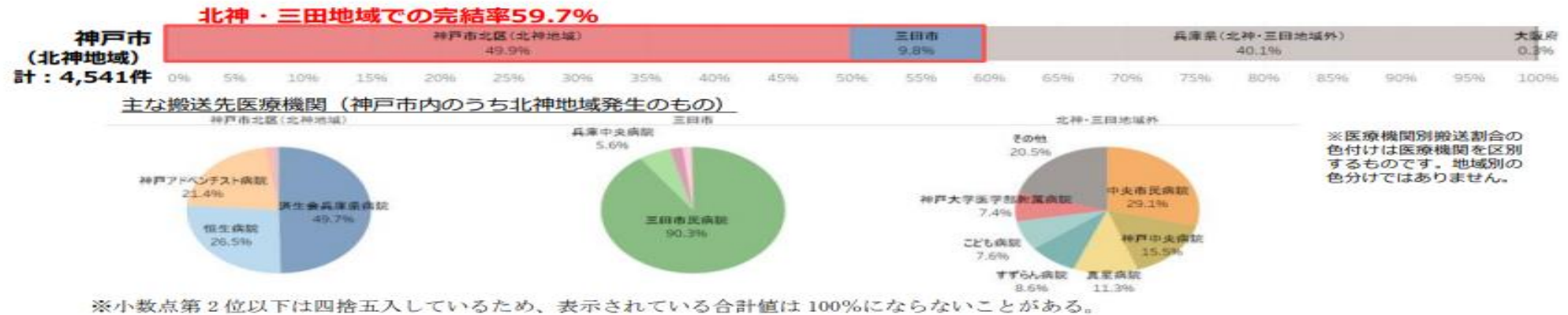
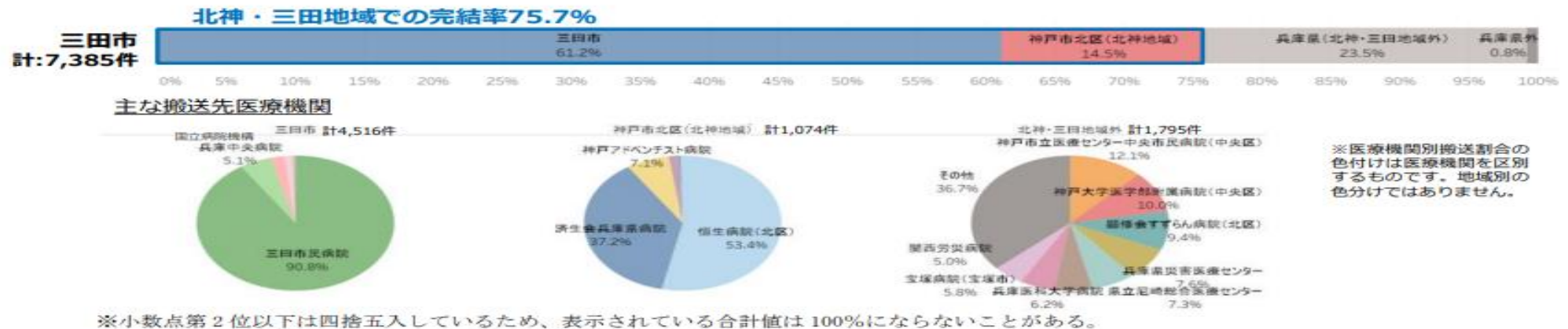
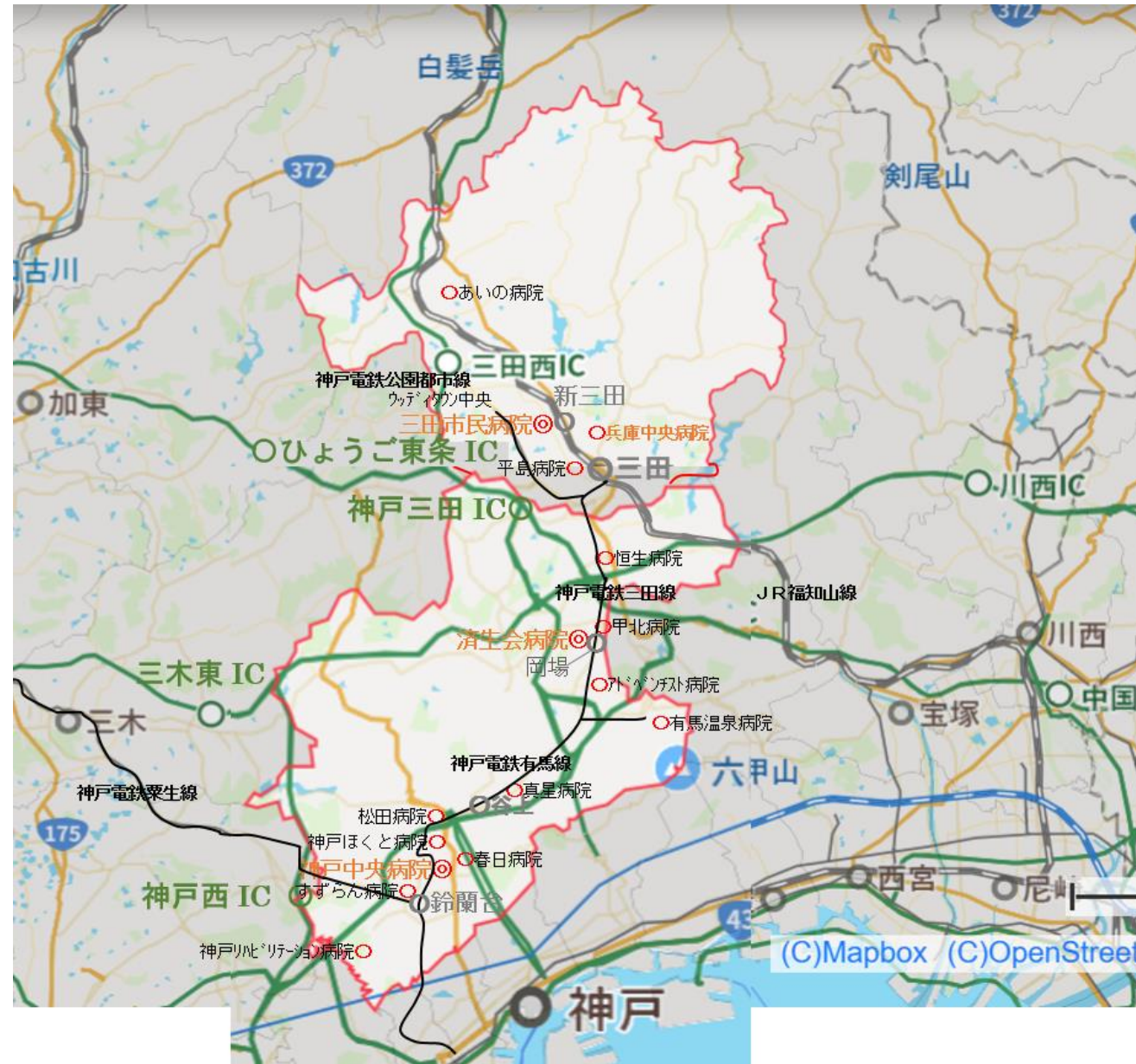


図 4-11 三田市消防による搬送先医療機関の所在地割合



出所：出所：神戸市北區救急搬送データ(2018.1～2021.1)、三田市救急搬送データ(2018～2021.3)

北神地区と三田市地域の総合病院



公立病院の果たすべき役割

地域の医療ニーズに対して、採算性や特殊性の面から民間医療機関では対応が困難である医療の提供。

市民の望む病院
(医療の品質含む)

- ・望む品質：安心安全で質の高い医療の提供
(家に近い、設備充実、良い医師、評判良いなど)
- ・望む役割：救急医療 (入院を必要とする重症救急)、小児・周産期医療、地域完結型医療拠点 (保健・介護との連携含む)



公立病院の役割

- ・過疎地(山間へき地・離島など)における一般医療の提供
- ・不採算・特殊部門(小児・救急・周産期・災害・精神・新興感染症など)に関わる医療の提供
- ・民間では限界のある高度・先進医療の提供(がん、循環器疾患、心疾患、呼吸器疾患など)
- ・医療研修・医師派遣の拠点



- ・安心安全で質の高い医療 ・救急医療 ・高度先進医療 ・小児・周産期医療
- ・災害医療 ・新興感染症医療
- ・地域完結型医療拠点 (保健・介護との連携含む) ・医療研修・医師派遣の拠点

三田市民病院の改革の必要性(1)

《改革の必要な背景》

- ・人口減少と高齢化⇒必要な医療ニーズが大きく変化
 - 急性期医療:「必要数確保」から「適正規模＋より質の高い医療」
 - 高齢者医療:「通常の医療」から「特大規模(団塊世代)
＋長期間医療(長生き)」
- ・国は公立病院の再編統合・ネットワーク化を政策誘導
 - ⇒機能整備と病床数適正化・病院経営の黒字化が狙い、
再編統合・ネットワーク化のための財政支援を準備。

三田市民病院の改革の必要性(2)

《三田市民病院の状況》

・三田市の医療の状況は医療を必要とする多くの方が市外に流出。三田市民病院の利用率は高いものの医療の質を疑問視する声もある。このような中、三田市民病院では「病院の評判」を良くすることを第1の課題として多くの良い医師の供給を神大に申し入れているが、神大からは医師の集まる良い病院にすべし大規模化が必須との提案がきている。近隣地域の再編統合が進んでおり(北播磨、丹波市など)、何もしないと相対的に医療の質が見劣りするようになり益々医師が来ないという懸念が出てきている。

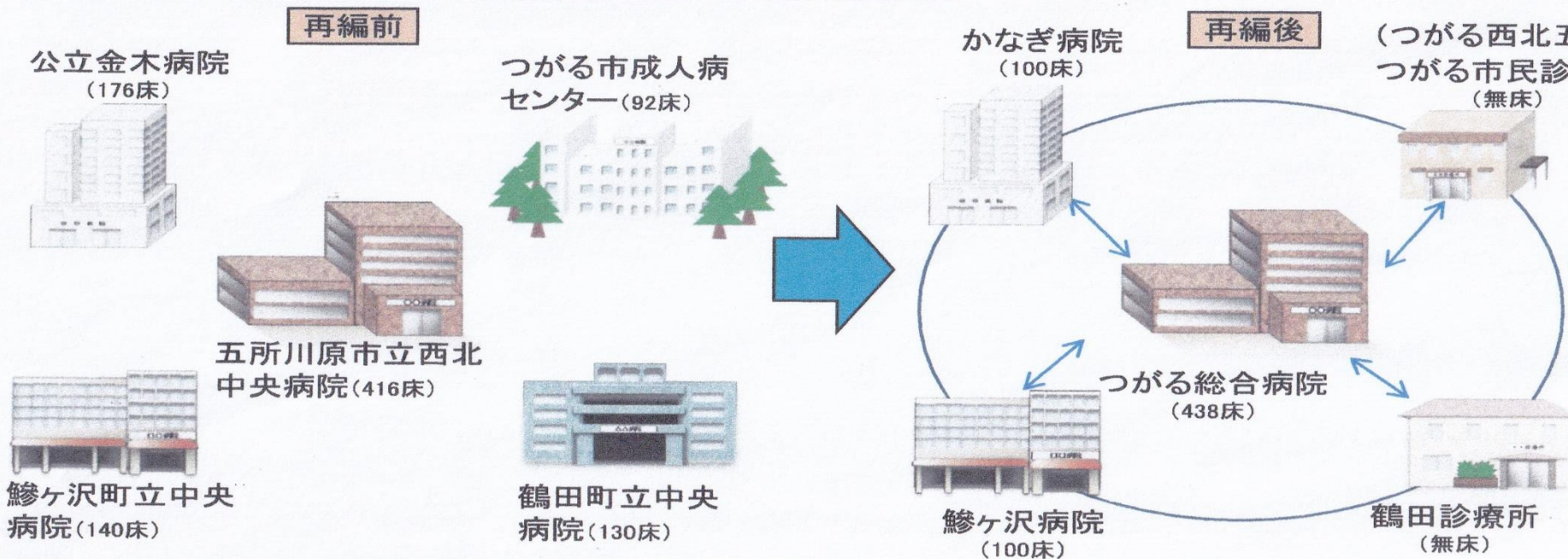
・この他、三田市の医療に関わる状況に関して不十分なところがある。住民は地域完結型の医療を望んでいるが、急性期後の回復医療の取組み、在宅復帰支援・在宅医療の取組み、介護との連携の取組みにおいて、見劣りするところが見られる。

⇒三田市並びに三田市民病院の抱える課題解決には、三田市単独での解決は財政面から困難。国の政策に従って、同じ課題を抱える済生会病院と連携して再編統合を進めることに賛同する。但し、再編統合の病院が三田市を含む地域完結型医療の拠点とすることを強く要望する。

再編・ネットワーク化について

- 地域全体で必要な医療サービスを提供できるよう、医師派遣機能等を有する基幹病院と日常的な医療を提供する病院・診療所に再編し、これらをネットワーク化するなど、公立病院はじめ医療機関相互の機能分担と連携を推進。

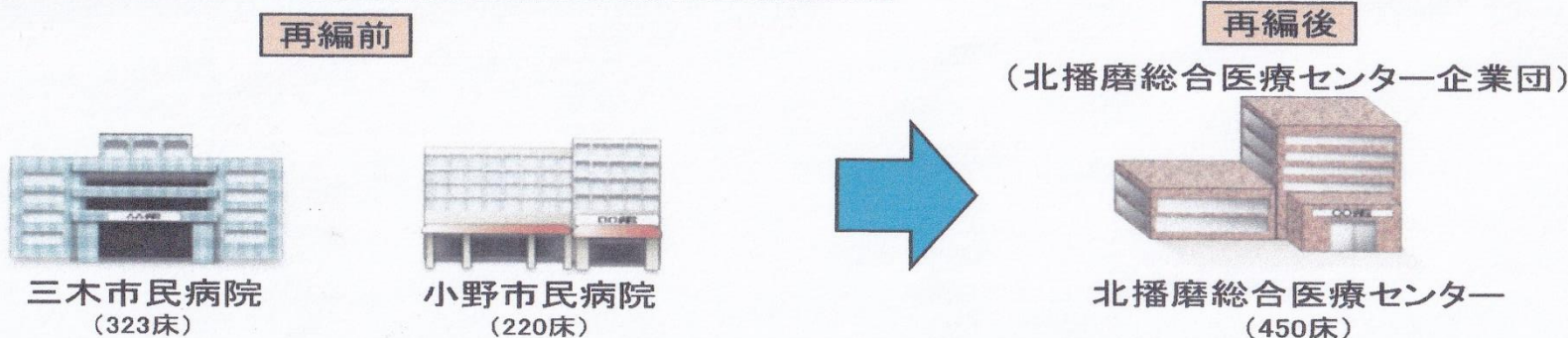
基幹病院・サテライト型(青森県西北五医療圏の例)



<再編による主な効果>

- ・ 広域連合内の医師数が増加 (51名→61名)するとともに、中核病院の診療科が充実。(16診療科→21診療科)
- ・ 関係医療機関において患者情報を共有し、切れ目ない医療提供を実現。

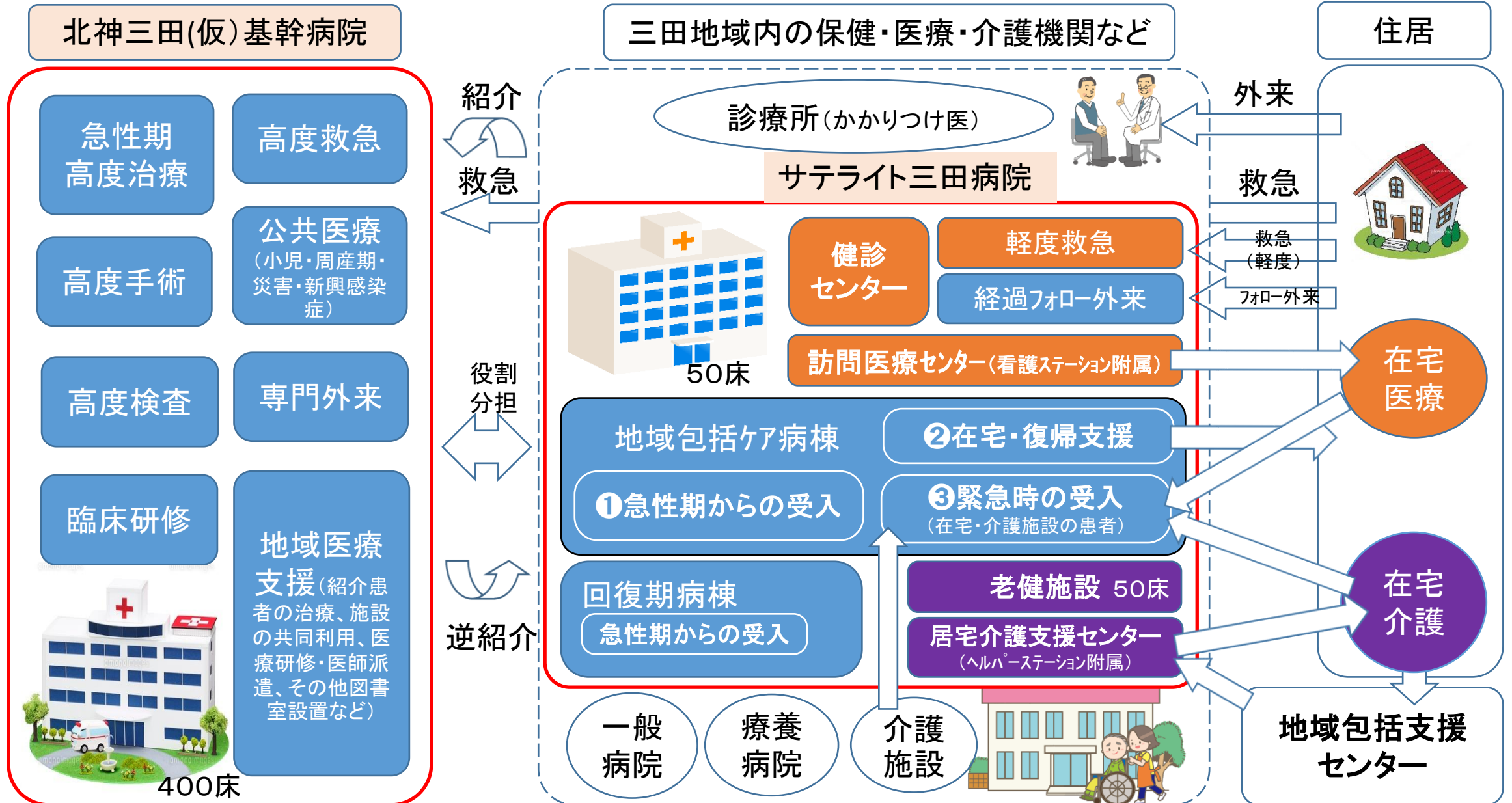
統合型(兵庫県三木市・小野市の例)



<再編による主な効果>

- ・ 医師数が増加 (60名→80名)し、診療科が充実。(21診療科→33診療科)
- ・ 休止・縮小していた分娩や小児救急を開始・拡充するなど、必要とされる地域医療を確保。

基幹病院とサテライト病院との役割分担構想



三田市民病院改革に対する提案

1. 三田市民病院の改革は、**第1に良い病院**(病院の評判が良い、利用者が集まる、良い医師が集まる)となるよう進めて頂きたい。
2. そして、三田市の**住民が安心して安全に暮らせる**ように、救急医療、高度専門医療、政策医療(小児・周産期、災害、新興感染症)の適切な提供とともに、**健診、高齢者向けの在宅医療及び介護(居宅、通所、施設)**も含めた**地域完結型医療の拠点**となるように合わせて改革して頂きたい。
3. 再編統合形態は、「**基幹病院＋サテライト病院1ヶ所ないし2ヶ所**」にして頂きたい。経営は一団体に全病院を運営し、医師は基幹病院が集めてサテライト病院には必要数派遣する。
4. 場所は、**基幹病院は街の機能を集約したい且つ人の集まるようにしたいところ**として頂きたい。まちづくりの視点を持ちたい。三田市内ならJR三田駅から総合保健福祉センターまでのところ。神鉄があり北神地区とも連絡良い。**サテライト病院は現三田市民病院跡地**が望まれる。
5. **再編統合後の医療圏は、新たに「北神三田(仮称)」圏域を新設するとともに保健・福祉の圏域も合わせる**ことが望まれる。現在の三田市民病院は「阪神北」医療圏(「宝塚」に事務拠点)に属す。再編統合相手の済生会病院は「神戸」医療圏に属す。なお、保健センターは「宝塚」、福祉センターは「三田」、政治は「兵庫県北部」の位置付け。新たに「神戸」医療圏も絡み、保健・医療・福祉の連携が複雑になる。各施策の決定遅れ・ちぐはぐ・市民の意見が通りにくくなるといった弊害が懸念される。

三田市民病院に関する調査

- (1) **患者数** 入院は全国類似病院平均レベル。外来は同レベルのプラス1割。良。
- (2) **医師数** 全国類似病院平均レベルのプラス2割を確保。充実？
- (3) **病床数** 入院患者が約2割増えると想定されている。現代病床300床×0.8(稼働率)×1.22(将来増)≒300床
・ ・ ・ 各医療圏域共に急性期病床が過剰であるが、地域により事情のある所もあり一律削減ではないのでは！
- (4) **病床稼働数** 全国類似病院平均レベルのプラス約1割。良。
- (5) **平均在院日数** 全国類似病院平均レベルの約7割。良。
- (6) **診療科数** 19科。どのような状況か(ニーズ対応、過不足)未調査。
- (7) **病院機能指定** 救急、臨床研修、地域医療支援・・・どのような状況か未調査。
- (8) **特殊診療機能** 人間ドッグ、人工透析、NICU・未熟児室、運動機能訓練、ガン(放射線)診療・・・どのような状況か未調査。
- (9) **財務状況** 経常損益が採算すれすれのところ。市からの繰入金は17～18億、〈法の基準内〉。資本金・剰余金の合計29億円。良いとは言えない。